



ショックから立ち直り ミニ・ブームを迎えるドバイ

(一財) 国際開発センター
エネルギー・環境室

研究顧問 畑 中 美 樹

はじめに

「ドバイ・ショック」の発生後、ドバイの繁栄は砂漠の蜃気楼のように一時的なあだ花に過ぎなかったと見る専門家も少なくなかった。短期の外部資金依存型の開発でブームを築いていたドバイだけに、世界的な金融危機の発生による資金流入の停滞は痛手となった。事態の深刻さは、2009年11月下旬、ドバイの開発事業をけん引してきた政府系持ち株会社ドバイ・ワールドが、債務返済のリスケジュールを債権団に要請せざるを得なかった事実からもうかがえる。加えて、ドバイ政府は最終的には資金繰りのためにアブダビ政府に資金支援を仰がねばならなかったほどである。

資金調達が難しくなったドバイのデベロッパーや不動産会社は開発事業の縮小や棚上げを余儀なくされ、これら企業からの発注で潤っていた下請け・孫請け企業の多くも資金繰りに窮することとなった。ドバイ・ショックの発生後、ドバイの不動産価格はピーク時のほぼ50%に落ち込み、正確な数字は分からないものの数十万人の外国人が職を失ったり債務支払いから逃れるためにドバイを後にしたといわれる。

しかし、ドバイ・ショックの発生から3年半経った今、ドバイは不死鳥のように復活しつつある。経済発展のための重点分野を、2009年までのような世界の耳目を集めるような奇抜な開発事業から本来ドバイが得意としてきた貿易・

物流の「ハブ(拠点)」機能及び観光事業に移すとの戦略が奏功したからだ。要は原点回帰を図ったわけである。ヒト・モノ・カネの流れの中にドバイを位置づけるとのドバイ本来の戦略が上手くいったのは、ホテルや通信・運輸をはじめとする基礎インフラがこれまでの先行投資で周辺国に比べて格段に整備されていたからにほかならない。

さらにドバイにとって幸いであったのは、近隣の中東諸国がいわゆる「アラブの春」に襲われたことである。エジプトにおける政治・経済両面での混乱、北アフリカで猛威を振るうイスラム過激派に揺れるチュニジア、血なまぐさい内戦の続くシリア、その影響を受け始めているレバノン、ドバイと並ぶ湾岸のビジネス拠点であるバーレーンの不安定化、そして突然イスラム政権への不満の表面化したトルコと、中東の観光立国は何れも今でも揺れ動いている。

こうしたなかアラブの春の発生した諸国からドバイに拠点を移した企業も少なくないと言われる。とりわけ目立つのが、中東の投資家たちが域内では最も安全な場所(Safe Haven)と見なすドバイへの資金の移動である。この点はシェイク・ムハンマド・ビン・ラシッド・アル・マクトゥーム・アラブ首長国連邦(UAE)首相兼ドバイ首長が、2013年2月11日、ドバイで開かれた「政府サミット」で「アラブの春」の結果、アラブ諸国から80億ドル超の資金が流入し

たと語っていたことから明らかである。さらに国連貿易開発会議（UNCTAD）の資料によれば、UAEへの外国直接投資額は2010年の55.0億ドルが2011年には76.8億ドルへと40%弱も増えている。

新たな経済発展を支えるドバイ国際空港

ハブ機能への回帰戦略に「アラブの春」の発生というドバイには予期せぬ追い風も加わって、ドバイを含むアラブ首長国連邦（UAE）の2012年の実質経済成長率は2006年以降で最も高い4.4%を記録した。

中東専門家の全てがドバイの先行きを楽観視しているわけではないが、ここに来てのミニ・ブームを積極的にとらえる人たちは持続可能なものと見ている。何故ならば、今後のドバイ経済を下支えするうえで最も重要な来訪者数や取扱貨物量が2013年に入って大きく伸びているからである。

観光産業にとって重要な航空機乗客の来訪者数を見ると、ドバイの場合、2013年4月には5,418,946人と2012年4月の4,566,673人から18.7%も増加している。周知のように、ドバイ国際空港は利用者数の点から言って既に世界第3位の空港となっている。しかもドバイ国際空港の利用客数は2012年11月から連続5ヵ月で500万

筆者紹介

慶應義塾大学経済学部卒業（1974年3月）、1974～1980年富士銀行勤務後、1980～1983年（勲）中東経済研究所出向。1983年富士銀行復職後（1月）、同行を退職（10月）。（勲）中東経済研究所・カイロ事務所長を経て、1990年同研究所退職。1990年12月～2000年9月（勲）国際経済研究所勤務（主席研究員）、2000年10月～2005年3月（勲）国際開発センター エネルギー・環境室長、2005年4月よりエネルギー・環境室研究顧問。中東や北アフリカ諸国の王族、政治家、政府関係者、ビジネスマンに知己が多く、中東全域に豊富な人的ネットワークを有する。専門領域は中東経済論。

※著書『「イスラマナー」がわかると経済の動きが読めてくる！』（すばる舎、2010年）『中東のクール・ジャパンーズ』（同友館、2009年）『中東湾岸ビジネス最新事情』（同友館、2009年）『南地中海の新星リビア』（同友館、2009年）『今こそチャンスの中東湾岸ビジネス』（同友館、2009年）、『オイルマナー』（講談社現代新書、2008年）、『石油地政学』（中公新書ラクレ、2003年）

人の大台を超えている。因みに、2013年1～4月の利用客数は21,905,363人と前年同期の18,828,279人に比べて16.3%の増加となっている（表1）。

ドバイ国際空港の年間利用者数を見ても、2012年は57,684,550人と2011年の50,977,960人から13.2%も増えている（表2）。ドバイ国際空港は2012年の年初において同年の利用者数を約56,500,000人と予測していたので、実際にはこれを100万人以上も上回ったことになる。なお、

表1 ドバイ国際空港の乗客利用数（2013年1～4月）

（単位：人、%）

	2013年	2012年	前年比 増減率
1月	5,559,760	4,852,139	+14.6
2月	5,080,360	4,561,147	+11.4
3月	5,846,297	4,848,320	+20.6
4月	5,418,946	4,566,673	+18.7
合計	21,905,363	18,828,279	+16.3

出所：ドバイ国際空港作成資料

表2 ドバイ国際空港の乗客利用数（2011年，2012年）

（単位：人，％）

	2012年	2011年	前年比 増減率
1月	4,852,139	4,254,735	+14.0
2月	4,561,147	3,831,385	+19.0
3月	4,848,320	4,201,708	+15.4
4月	4,566,673	4,237,548	+7.8
5月	4,388,614	3,976,633	+10.4
6月	4,714,746	4,065,809	+16.0
7月	5,006,155	4,724,109	+6.0
8月	4,847,152	4,019,230	+20.0
9月	4,780,394	4,236,587	+12.8
10月	4,923,246	4,307,817	+14.3
11月	4,875,003	4,431,673	+10.0
12月	5,320,961	4,690,726	+13.4
合計	57,684,550	50,977,960	+13.2

出所：表1に同じ。

2011年の利用者数は約5,098万人と2010年の4,720万人に比べて約8％増であった。

因みに、ドバイ空港は2013年の同空港の来訪者数は6,540万人と予測しており、2020年にはさらにほぼ50％増の9,800万人に達すると見ている。英国航空の予測でも、ドバイ空港の利用者数は2015年までにロンドン・ヒースロー空港を抜いて世界で最も忙しい空港となるという。

マスターカード社の調査も、ドバイが2017年までにニューヨークやパリよりも人気のある観光目的地となると結論付けている。同社によれば、ドバイは既に世界で7番目に人気のある観光地であるという。

旅客と同様に伸びているのがドバイ国際空港で取り扱う貨物量である。同空港は年間250万トンの貨物取扱能力を持つが、2012年の年間貨物取扱量はその約91％の2,279,624トンに達してい

る（表3）。同量は2011年の2,194,264トンに比べて3.9％の増大である。2013年4月の月間取扱量を見ても199,985トンと2012年4月の186,385トンから7.3％増大している（表4）。また2013年1～4月の貨物取扱量も784,832トンと前年同期の703,826トンから11.5％も増大している。

今後注視が必要なイスラム勢力の動向

ドバイの居住人口は約210万だが、その85％超はエジプトやシリア、レバノン、ヨルダン等のアラブ諸国やインド、パキスタン、バングラデシュ、フィリピン等のアジア諸国、そして英米仏独等の欧米諸国、さらにアフリカ諸国や旧ソ連圏等からの外国人である。しかもドバイの居住人口のほぼ4分の3は男性という歪な男女構成比率となっている。

但し、多国籍者の活躍するロンドンやニューヨーク等のその他の世界のビジネス都市とは異

表3 ドバイ国際空港の貨物取扱量（2011年，2012年）

（単位：トン）

	2012年	2011年	前年比 増減率
1月	173,531	178,199	▲2.6
2月	157,492	147,937	+6.5
3月	186,417	185,921	+0.3
4月	186,385	179,397	+3.9
5月	187,638	187,905	+0.1
6月	194,992	183,365	+6.3
7月	204,510	192,538	+6.2
8月	190,770	182,782	+4.4
9月	193,261	177,128	+9.1
10月	202,619	197,841	+2.4
11月	200,060	191,658	+4.4
12月	201,949	189,593	+6.5
合計	2,279,624	2,194,264	+3.9

出所：表1に同じ。

表4 ドバイ国際空港の乗客利用数（2013年1～4月）

（単位：トン）

	2013年	2012年	前年比 増減率
1月	173,531	188,520	+8.6
2月	157,492	182,580	+15.9
3月	186,417	213,248	+14.7
4月	186,385	199,985	+7.3
合計	703,826	784,832	+11.5

出所：表1に同じ。

なり，ドバイで働く外国人が市民権を得ることはほぼ不可能である。ドバイの経済・産業・ビジネス活動にとって必要ではなくなった外国人にとっては，その時が同国を後にする時となる。

「ドバイの夢：素晴らしい王国の内側（Dubai Dreams：Inside the Kingdom of Bling）」の著者であるレイモンド・バレット氏は「貴方は

ドバイで40年間働くことができるが，勤務が終わり次第，居住許可も終わる」（<http://www.aljazeera.com/indepth/features/2013/05/201352911311160616.html>）と述べている。

多くの失業者を含む若者が「アラブの春」のけん引役となったチュニジアやエジプトとは異なり，ドバイをはじめとするUAEの国民は総

じて楽しい生活を送っており大半が相対的に給与水準の高い政府部門に奉職している。チュニアやエジプトでは国家のシステムの改革や変革を求める声が政権転覆の引き金となったが、UAEでは抗議運動は総じて国民以外の居住者によるものである。しかも要求内容も国家のシステムの変革を求めるといった類のものではなく、賃金の引き上げや生活環境の改善を要求するものであることが多い。

但し、内政面で懸念材料が全くないわけではない。依然事実関係は定かではないのだが、エジプトのムスリム同胞団との関係があったとされる人たちが拘束され裁判にかけられる動きも起きているからだ。

UAE 連邦最高裁判所・国家安保裁判所は、2013年5月21日に行った審理で、拘束中のイスラム派94人に対する最終判決を7月2日に下すことを明らかにした。因みに、同日の裁判には被告94人のうち逃亡中の8人を除く86人中の85人（うち女性13人）が出廷した。ファラハ・アル・ハジリ裁判長は同日の裁判終了後、次のように述べている。

- ① 被告人、親類、弁護士、ジャーナリスト、治安部員を含む全ての出席者に謝意を表したい。
- ② 自分はこの一連の裁判を担当し検察側からの容疑者に対する非難及び弁護側からの請願を聞いてきた。
- ③ ここで全ての方々のご協力に感謝を申し上げ、神に適切な判決をお導き頂くことをお願いしたい。
- ④ UAEの司法制度は優れたものである。

同日の審理では出廷した4人の弁護士全員が、被告人の弁論を展開し罪状の取り下げを要求したほか検察の逮捕の手法が違法であることを訴えている。なお、被告人の中の68人の弁護

を引き受けたアブドゥル・ハミド・アル・クマイティ弁護士は、1時間に亘り概要次のような弁論を展開した。

- ① 被告人たちは国家に忠誠を尽くす人々で無実なので、資産・金融口座の凍結の解除をお願いしたい。
- ② 被告人たちは目隠しをしたまま供述調書に署名させられたなどしているので、検察当局の情報収集法を調査して欲しい。
- ③ 被告人たちの虐待を受けたとの訴えに検察当局は対応していない。
- ④ 検察当局はツイッター等のソーシャル・ネットワークから情報を収集した。
- ⑤ 被告人は誰一人として国家の名誉を傷つけようとしていない。

また、ジャシム・アル・ナクビ弁護士も約1時間に亘り次のような弁論を行った。

- ① 逮捕の手順は法に従ったものではなかった。容疑者の捜査に関わる書類の一部は、投獄4ヵ月後に出されている。
- ② 検察当局の情報源の正統性に疑問が残るほか、裁判は被告人の行動ではなく見解に対して行われようとしている。
- ③ 検察当局により提供された不正確な情報は誤った証拠に基づくものである。
- ④ トレーニング・センターを所有する一人の被告人は秘密組織の人達を訓練したとして非難されたが、同センターは会計士、教師、警察官などの分野の管理職を訓練するのに利用されている。

なお、同日の裁判には、男性容疑者73人、女性容疑者12人、男性容疑者の親族69人、女性容疑者の親族65人、検察官6人、ジャーナリスト16人、社会協会代表5人、弁護士6人が出廷・

傍聴した。同日の裁判で女性の容疑者の仮釈放が認められ、そのうちの一人は海外での病氣治療を認められている。

さらに、アラブ首長国連邦（UAE）国営通信（WAM）は、2013年4月18日、次のように伝え、攻撃を計画していたとしてアル・カイダ細胞の7人を逮捕したと発表している。逮捕者の中には著名な人権活動家や裁判官、教師、学生組織の指導者が含まれているという。

- ① アル・カイダの細胞は、UAE、国民、外国人居住者の治安に有害な行動を計画していた。
- ② この細胞は、アル・カイダのために要員を募集していたほか、資金供与や平坦面での支援も行ってた。
- ③ この細胞は、中東の他国にも活動を拡大しようとしていた。
- ④ 逮捕された7人は全員アラブ人で、尋問を受けた後、裁判にかけられることになる。

UAEでは2012年12月、同国及びサウジアラビアでの破壊行為を計画していたとしてテロ細胞のメンバーが逮捕されたことが明らかにされたほか、イスラム組織に属して政府転覆を計画していたとの容疑で逮捕された容疑者94人の裁判も上述のように進められているところである。4月の逮捕について匿名希望のUAEの人権活動家は次のように論評している。

- ① アル・カイダの組織がUAE内で活動していたとは考えにくい。
- ② 私はUAEの治安当局の言うことはほとんど信用していない。
- ③ この手の逮捕は抑圧の前触れであろう。

UAEにおけるイスラム派の活動の状況はよく分からないが、GCCのテロ専門家たちは今回

の逮捕を受けて「中東における政治・社会情勢の不安定化が戦闘的な若者達が出てくる環境を創出しているので、中東世界ではこうした逮捕がさらに行われることになるだろう」(ナショナル紙 2013年4月18日)と論評し、UAEでも今後さらに逮捕者が出る可能性を指摘している。

今ひとつの懸念材料は再度の債務返済繰り延べ

ミニ・ブームに沸くドバイで今ひとつ懸念材料があるとすれば、再度の債務返済繰り延べが順調に行われるのか否かである。ドバイ政府と政府関係企業の現時点での総債務額は1,130億ドルと推計される。このうち2014年の1年間に返済期日の到来する債務額は全債務額の32%強に当たる365億ドルにも達する。因みに、ドバイ政府及び政府関連企業の2012年の返済額は146億ドルであり、2013年は94億ドルと言われている。

ドバイ財政庁のアブドゥルラフマン・アル・サーレハ長官は、政府及び政府関連企業の債務について5月下旬時点で次のように語り返済に懸念はないことを改めて強調している。

- ① ドバイ政府は5月上旬、4月に満期を迎えた債券33.4億ディルハム（9億1,000万ドル）を支払った。この返済はドバイ政府が返済義務に積極的に対応していることを示すものだ。
- ② この返済は全財政債務を期日通りに返済するとの姿勢を強く示すものだ。

なお、EFG-Hermes Emirates投資銀行のチーフ・エコノミストであるモニカ・マリク女史は、ドバイの債務について以下のように論評している（AFP通信 2013年5月23日）。

- ① ドバイが2009年から行った債務の返済繰り延べの返済時期が2014年から2016年に訪れ

るので、今一度債務の返済繰り延べ交渉が行われるだろう。

- ② その中にはアブダビ政府及び UAE 中央銀行に対する債務も含まれている。
- ③ 我々はアブダビ政府及び UAE 中央銀行に対する債務200億ドルは容易に返済繰り延べになると考えるので、(365億ドルと巨額である) 2014年の返済も管理可能になるだろう。
- ④ 仮にある債務の全額返済が難しい場合、過去1～2年の間で確立された「債務の一部を返済し残余を返済繰り延べとする方法」がとられると考える。

なお、国際通貨基金 (IMF) のマスード・アフメド中東局長は、今後のドバイ経済について次のように診断している。

- ① ドバイは今後数年で巨額の債務返済を迎えるが上手く管理するだろう。
- ② 2012年にドバイ経済は4%弱の成長を遂げたが2013年も4%強の成長を達成するだろう。
- ③ ドバイ政府等の関係者は債務危機の教訓を得たと考えるが、ごく一部に依然余りに楽観的な将来を語るものがある点には注意が必要だ。
- ④ ドバイはロジスティックス、貿易、不動産という広範な分野での回復過程にある。
- ⑤ その意味ではドバイ経済はよくやっている。
- ⑥ 但し、ドバイは今、再び巨大事業に取り掛かろうとしているが段階的に実行する必要がある。